円滑かつ迅速な災害緊急事態対処

政府における災害初動体制の充実強化に向け、政府・現地対策本部の設置運営や関係省庁間の総合調整を実施。また、活動拠点や通信環境を始めとした初動体制の確保を推進する。あわせて、衛星・ドローン等のデータ活用、対応手順の標準化、訓練・事前調整を進めることで、災害初動対応の更なる円滑化と自治体支援体制の強化を図る。

現状・課題

・迫りくる大規模災害に備え、初動対応体制の充実・強化が重要。また、現地に派遣される政府職員等が災害応急対策に集中できる職務・生活環境の整備も必要。
・夜間の情報空白、自治体間の連携不足、運用体制の未確立の解消が課題。災害に強い通信基盤等の導入による安定した通信環境の確保なども必要。

施策の方向性

政府における災害初動体制の充実強化

・緊急参集要員などの体制確保とその生活環境の充実
・現地派遣要員のTKB資機材の充実など活動環境の整備
・立川防災合同庁舎等防災拠点の維持管理・改修等による機能確保
・新技術等を活用した中央防災無線網の高度化、多機能化 等



【鳥の目プロジェクト】

災害初動対応の更なる円滑化

・人工衛星・航空機・ドローン等のマルチモーダル情報を活用し、関係機関間での状況認識の共有・意思決定を一体的に行う機能の実装（鳥の目プロジェクト）
・都道府県の航空運用調整業務を対象とした全国標準の骨子策定やモデル実装を通じた災害対応の標準化
・AI活用による災害対応の標準化に向けた調査研究の実施

3か年の取組イメージ

現場検証における知見蓄積も踏まえて、継続的に改善を図る

基礎調査を踏まえた全国標準モデル骨子検討	図上訓練等を踏まえた全国標準モデル具体化	実証試験を踏まえた全国標準モデル実装開始

目指すべき姿

・政府本部の設置・運営や被害状況の情報収集等をより円滑に対応することが可能となる

・被災地においてより円滑かつ持続可能な災害応急対策が可能となる

・大規模災害時においても災害対策に必要な通信機能を確実に確保することが可能となる

・隣接自治体間における広域連携や応援・受援時の状況認識の共有を実現するとともに、人命救助に係る意思決定の迅速化・高度化が可能となる

円滑かつ迅速な災害緊急事態対処

船舶・人材・資器材を平時から確保し、災害時等に船舶を活用した医療提供を実施する体制を整備する。今後は人材育成・確保、訓練・運用検証等を通じて、更なる実効性向上と医療提供体制の充実を図る。

現状・課題

船舶活用医療については、令和８年１月から運用を開始し、令和８年熊本地震への対応において初めて実施したところである。一方で、継続的な運用に向けて、実災害や訓練等を通じた知見の蓄積を図り、更なる実効性向上に取り組む必要がある。

施策の方向性

「船舶活用医療人材」育成・確保

・発災時の初動体制確保に向け、医療機関・医療関係団体を対象とした研修・訓練や、人材育成ガイドライン等を活用した研修を実施し、「船舶活用医療人材」の育成・確保を図る。

関係機関連携による図上・実動訓練の実施・検証

・関係者との連携の下、大規模災害を想定した実践的な図上・実動訓練及び運用検証を実施し、船舶活用医療の運用体制の強化を図る。

目指すべき姿

・被災地域における医療機能を補完し、災害時における必要な医療の確保が可能

・船舶を活用した医療提供体制の充実・強化を通じて、国民の生命及び身体の保護に寄与



宮崎カーフェリー「ろっこう」



防衛省PFI船舶「はくおうⅡ」





令和８年熊本地震における船舶を活用した医療提供の様子